

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



のりしろ

CHECK



1 貧困をなくそう

日本の子ども6人に1人が、月に10万円以下で暮らしています。先進国でも「相対的貧困」（その国や地域の平均的な生活水準と比べ経済的に貧しいこと）が課題になっています。



2 飢餓をゼロに

日常的に空腹を抱えている人は世界中に約8億人といわれています。無駄な食材を買いすぎない、食べきれない食材は地域の「子ども食堂」に持ち込む、などもおすすめです。



3 すべての人に健康と福祉を

コロナウイルスの感染予防はもちろん、ストレスなど「心の病」のケアや安全運転（交通事故の減少）も、目標の達成に関わっているターゲットとなっています。



4 質の高い教育をみんなに

不登校の増加、学力の低下が先進国でも課題となっています。子ども向けイベントやボランティアに参加する、募金をするなど教育に関心を持つことが大切です。



5 ジェンダー平等を実現しよう

日本の「グローバルジェンダーギャップ指数」は153か国中121位。普段から相手の気持ちを考えて言動したり、家庭では家事の分担を話し合ってみたりしましょう。



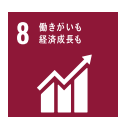
6 安全な水とトイレを世界中に

歯みがきや手洗いのときは水を出しっぱなしにせずこまめに止める、トイレは強弱使い分けて流し節水に心がけるなど、水の大切さに感謝しながら使いましょう。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

日本のCO2排出量は世界第5位。パソコンの液晶を少し暗めに設定したり、エアコンの温度に気を付けるなど、できることから始めましょう。再生可能エネルギーを多く供給している電力会社との契約も◎



8 働きがいも経済成長も

「働き方改革」が求められています。今の業務に無理や無駄が無いかフローを確認したり、スタッフ内で悩みごとがないか、お互いに声がけし合いましょう。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

インフラが整うことにより私たちは豊かな生活ができます。災害復旧の募金や、技術革新へのクラウドファンディングなどに参加し関心を持つことは、産業への貢献になります。

CHECK



10 人や国の不平等をなくそう

紅茶やチョコレートなどの輸入品には、フェアトレードのマークが入った商品も増えてきました。また、偏見をなくし多様性を認めることも大事。マイノリティ向けのサービス開発も注目されています。



11 住み続けられるまちづくりを

SDGsは地方創生のキーワード。持続可能なまちづくりのためには多くの課題解決が必要です。住まいやオフィスの省エネ、ごみや廃棄物の削減などに心がけましょう。



12 つくる責任 つかう責任

日本は毎日1人当たりご飯茶碗1杯分相当量の食料を廃棄しています。食べても安全な「消費期限」、おいしく食べられる「賞味期限」の違いを知ること、使わないものは誰かに譲るなどのエシカル消費を。



13 気候変動に具体的な対策を

地球温暖化により気候変動が起こると、異常気象や海面上昇、水・食糧不足などが発生します。CO2排出量の少ない商品を選んだり、電気をLED照明に変えてみましょう。



14 海の豊かさを守ろう

毎年800万吨以上の廃プラスチックが海に流入しているといわれています。プラスチックのスプーンやフォーク、ストローの不使用の動きが世界中で広がっています。



15 陸の豊かさも守ろう

日本は年間東京ドーム約115杯分のゴミを排出しています。環境に配慮したマークの入った製品を選ぶことや、マイボトルやマイバッグを使うことから意識しましょう。



16 平和と公正をすべての人に

コンプライアンスの徹底、情報セキュリティ・個人情報の確保を仕事に活かしましょう。ほかにも、ニュースに目を通すこと、選挙に参加し自分の意見を政治に届けることも大切です。



17 パートナースHIPで目標を達成しよう

産学官に加え、金労言（金融・労働・メディア）の連携が求められています。価値観を共有して協力し合うために、SDGsについて興味を持ち、できることから取り組みましょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です